

KOBE YMCA NEWS

神戸青年 No.627

2014. 1・2 Jan・Feb

発行所 日本YMCA同盟 東京都新宿区本塩町7
THE YMCA神戸版 発行人/水野 雄二 編集人/櫻井 英治
神戸YMCA 〒650-0001 神戸市中央区加納町2-7-15
TEL. 078-241-7201 FAX. 078-241-7479
URL http://www.kobeymca.org 印刷/わかばやし印刷



神戸YMCA 年間聖句 喜び人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。
(ローマの信徒への手紙12:15)

神戸YMCA第16回チャリティーラン報告



「心身に障がいのあるすべての人たちに笑顔をも」という思いを胸に、第16回神戸YMCAチャリティーランが開催された。例年開催していた11月3日は1日中雨だったが、幸い4日は雨も上がり、朝から晴れ間が広がった。


7時20分、三宮を出発した臨時の市営バスが、ボランティアリーダーをたくさん乗せてしあわせの村に到着。7時30分に開会礼拝。その後、会場の準備がどんどん進む。スタッフ、ボランティアリーダーの力は素晴らしい。あっという間に設営完了。ワイズメンたちも、それぞれのブースで出店の設営。いい匂いが広がる。8時過ぎには、小学生駅伝参加者が続々と集まり、登録が始まる。9時半に開会式を行い、10時には、6年生の部がスタート。ここでのスターターは、競技委員長山本光央さん。第1回からのご奉仕。これまで、綿密な打ち合わせを何度も行ってきた。その後、5年生、4年生と続き、小学生駅伝の表彰が終われば午前の部が終了。12時に、グループランがスタート。カラフルな衣装が目立つ。幼稚園児や家族連れのかわいさはこのイベントの花。もちろん、先生方のパフォーマンスも負けてはいない。会場全体を和ませてくれる。黒雲せまり、空が急に暗くなってきた。雨の中、一般、女子の部の駅伝がスタート。雨にも負けず、笑顔とともに力走。感動の輪が会場全体に広がる。ランプログラム最後の「100分の1マラソン」は、グランドコンディション不良のため、やむなく中止。お待たせのラッフル抽選会は、雨上がった芝生の上で、一喜一憂の連続。当たった人もはずれた人も、笑顔が広がるひとときだった。

今年、全体的に参加者が多かった。これは日程の影響で、小学校の行事との重なりがなかったことが大きい。一人一人ができることを精いっぱいやり遂げ、みんなの笑顔を大切にしながら楽しむことのできるイベント。それがチャリティーラン。今年もたくさんの笑顔をありがとう！

第16回神戸YMCAチャリティーラン 実行委員長 大野 勉

- 1. 参加ランナー数 964名
- 2. 参加ボランティア数 226名
- 3. 支援金合計 2,358,742円 (2013.11.30現在)

迎春




会長 中道 基夫 総主事 水野 雄二

皆様にはご健勝にて新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年国内で大きな災害が続いて発生し、多くの人が傷つき苦難の年となりました。また、いじめや虐待による「いのち」が軽視される事件も続く一年でした。そのような中で迎える新年も神戸YMCAはイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に倣いつつ、「いのち」に向き合う活動を続けていきます。神戸YMCAは今年、「新3ヶ年計画」に示された行動計画の最終年を迎えます。大きな計画目標である三宮会館再開発事業は、第1段階としての「ファミリーウエルネスセンター」の建設が本年7月に終了し、8月末より神戸市中央区脇浜の地において活動を開始いたします。また、新しい三宮会館建設も準備が整えられ、秋からは現会館の解体工事、新築工事へと進むことになっています。その間、専門学校及び本部事務局は新神戸アベニューに場所をお借りして業務を行なう予定です。完成まではしばらくの時間が必要ですが、いよいよスタートです。新しい時代にふさわしいYMCA会館の建設にご支援いただければ幸いです。神戸YMCAに連なる公益財団法人、学校法人、社会福祉法人の各法人は、「ファミリーウエルネス」を目指し、健全な家庭形成のために子育て支援・健康促進・高齢者支援の事業を協力・連携して進めようとしています。神戸YMCAの各施設には世代を超えた多くの市民が集い、交わり、自らの生き活きたとした「生」を養うと共に、家庭や地域社会がより良い状態であるための活動を目指したいと願っています。そして、その中心にはユース(若者)がいて、YMCAで学び、体験し、育つ機会が与えられていきます。YMCAの活動を通して若者たちが成長し、社会に大きな影響を与える存在として輝いてほしいと願っています。今も続く神戸YMCAの東日本大震災支援活動は、彼らユースによって担われています。これらの活動は、今年も継続される私たちのテーマであり、被災地のみならず混沌とした日本の社会の中で私たちが果たすミッションでもあります。すべての「いのち」が益々光り輝くことを願って、活動を展開してまいります。



余島キャンパスが小豆島で開かれて60年以上、その基本理念と活動内容は世界の余暇における先駆的な役割を果たしてきた。60年以上の時を経て、いま小豆島が余島を目指している気がする。

夏の暑い日、北の浜に響きわたる師の声を思い出す。「適当の意味が分かるか」。YMCAの仲間よ、今一度、礎を思い掘り起こせ。価値あるものに自信を持って磨きをかけることが、未来に羽ばたくきっかけになる。

一般社団法人小豆島観光協会 事務局長 石床 渉

未来への提言

1988年、バブル期と呼ばれた日本経済が、いや日本が狂乱した時期にわたしたちは神戸YMCAに入職した。当時の年齢が18歳、恐らくそれまでの神戸YMCAの長い歴史においてこの若さでの入社職は初めてのことであったと思う。いわゆる高卒新人、現地で採用のわたしたちは地元小豆島の余島センターに配属、そこで出会った上司が近江岸建設さんだった。本来は4月1日が正式な採用日、すなわち勤務開始日だが、「余島が忙しいので早く来て」とのこと。3月20日頃から勤務開始。そして神戸YMCAに入職して初めて上司から声を掛けられたのが余島の桟橋の上、忘れもしない「何、ボケーとしとんじやー!」の絶叫一喝! 背筋はピンと伸びず、伸びないどころか気が持たずと落ち込んだ日から始まった。さて余島でのわたしの仕事はレストランでの配膳と皿洗い、お客様が残した残飯の焼却とカンペコ、重たいベットの運搬、業務は年中2日に1度のペースで当然無報酬などと、それまで経験したことのないとても刺激的な毎日だった。

しかしYMCAは厳しすぎではない。25歳の時に休職期間をいただき、神戸YMCA学院専門学校ホテル学科に入学、ホテルマンとして海外への道を開いてくれた。海外でのホテルマンとしての10年と、その後の小豆島での生活のなかで常に思うことは、「余島はYMCAの教えも世界のもの」ということ、日本のどこにいても通用する」ということ。パリッとしたホテルマンのスキルや語学が堪能であるだけでは通用しない。あの夏の残飯の匂いや大量のシーツの重さを知るホテルマンは裏方さんの苦労を知っているから強い。クレーム対応で先方にお詫びに出向いてもかつての上司より怖い人はいない。少しづつ仕事が忙しくなり残業が続いても余島の宿直に比べたら全く平気。余島のインフォメーションセンターに飾られている西村さんの絵画からのメッセージは、現在の人材育成においても生かされ勇気を与えてくれる。

ホテル学科50周年に寄せて④



株式会社神戸ポートピアホテル 橋本 賢治
取締役副総支配人

2014年に神戸YMCA学院専門学校ホテル学科が創立50周年を迎えられたことを、心からお祝い申し上げます。創立からこれまで学校の発展に情熱とお力を尽くされました多くの皆様にあらためまして敬意を表します。



1979年4月同校ホテル学科に入学した頃、2年後に神戸で初の大型シティホテルができることを知り、在学中基礎教養と専門知識の習得に励み、念願叶いポートピアホテルに1期生で入社したことを思い起こしております。

丁度その頃、関西のホテル業界では新たな潮流を迎え、ほぼ時を同じくして全国チェーンのホテル、外資系、航空会社系等の関西進出が目白押しで、その発展を同校の卒業生が担い支えて参りました。

神戸も時代と共に進出し、基幹産業は鉄鋼や港湾の重厚長大からファッションそして今、観光産業と共に医療産業都市として、また平成25年6月にはMICE誘致のポテンシャルが高い都市として、国土交通省よりグローバルMICE戦略都市として指定を受ける等更に飛躍を遂げようとしております。

学生から社会人に新たなステージに立った時、地動説から天動説に自らが変わらなければなりません。学生の多くは地動説すなわち自分を中心に周りが廻っている、自分の判断が正しいと考えがちです、社会では共通の目的を持った人間集団の中で自分から動いて周囲や社会と交わっていかないと仕事は成立しません、自分の価値観だけで物事は進められません。これが天動説です。

神戸YMCA学院専門学校ホテル学科生は、在学中にホスピタリティ(おもてなし)を身に付けます、その学びはホテル産業に限らずあらゆる分野で活躍する礎となります。次世代のホスピタリティ産業で活躍する人材育成を目指し次なる50年へ向け諸先輩方・在校生・教職員・そして学校運営ご支援者の皆様と共に歩んで行けたら幸甚でございます。

東日本大震災支援活動

リフレッシュファミリープログラム

神戸YMCA東日本大震災復興支援「ファミリーサポート」では、年4回のファミリープログラムを企画しています。今年度第3回目となるファミリープログラムは、2013年10月19日(土)に行いました。今回は、6月のキャンプの際に植えた枝豆の収穫に、三田市香下の中農園へ向かいました。前日から続く雨が心配されましたが、雨も上がり、時折陽が射し、天候に恵まれた中でプログラムを行うことができました。

最初は少し、中農園を散歩しました。子どもたちはススキで遊んだり、栗を拾ったり、まだ青いドングリを木から摘んでみたりと、秋を感じながら自然を満喫していました。畑では、農園の方に収穫の仕方を教わり、手や専用のハサミを使って枝豆を収穫していきました。6月に植えたあの小さな豆からこんなにたくさんの枝豆が採れるのかと驚きと感動の声が、大人からも子どもたちからも上がっていました。また、大根も収穫させていただきました。採れた大根は皆で調理して、葉も一緒に味噌汁にさせていただきました。枝豆は塩茹でして食べました。自分たちで種植えをして収穫した枝豆は一段と美味しかったです!

プログラム中は、時間も忘れ、ゆったりとした時間が流れていたように感じます。「やっぱり自然の中で遊ぶのが良い」「楽しいから何度も来てしまう」プログラムに参加されたあるお母さんが話されていました。東日本から避難され、言葉の違いに悩みながらも日々一生懸命に生きている子どもたちにとっても、そしてお父さんお母さんにとっても、このプログラムは自然に触れ、自然を感じ、そして新しい出会いや再会を楽しむ場となっています。私たち一人一人の力は小さくても、継続して支援することの大切さを改めて感じました。



(リーダー 赤松 由梨)

沢知恵さんのコンサートを終えて

去る11月9日(土)、神戸栄光教会礼拝堂を会場に、YMCAスタッフやミッション委員の協力のもと、沢知恵さんのコンサートを無事に終える事ができました。今回のテーマは「本当の優しさと希望を」でしたが、テーマにふさわしく沢さんのピアノ、歌、メッセージからたくさんの優しさや夢や希望や元気を頂きました。

私が初めて沢知恵さんのコンサートを聴かせていただいたのは、カトリック神戸中央教会での「りゅうりえんれん(劉 連仁)の物語」の弾き語りでした。「りゅうりえんれん(劉 連仁)の物語」は詩人茨木のり子の長編叙事詩で、日本軍に強制連行された一般の中国人、劉 連仁(りゅうりえんれん)さんの北海道での13年間の逃亡生活をつづった壮大な物語です。沢さんはその詩に曲をつけ、70分間、ピアノの弾き語りをされましたが、私はドラマチックな世界にすっかり引き込まれてしまい、その才能とパワーに圧倒されました。



そして、今回のコンサートもまた感動的でした。語りの中から沢さんの人柄、信仰、生き方などが伝わってきました。いろいろ歌われた中で、私は特に「胸の泉に」という歌が心に響きました。「胸の泉に」の歌詞は、ハンセン病療養所大島青松園でその人生を送られた塔和子さんの人生の賛歌とも言える素晴らしい詩です。沢さんはそれに曲を付けて歌われたのですが、まさに胸の泉に落ちていく雫のように人生の潤いを感じさせる味わい深いものでした。沢さんは塔さんとの出会いをきっかけに2001年より毎年大島青松園でコンサートを開き今も続けておられます。沢知恵さんがこれからもますます多くの方々に夢や希望や元気を与えてご活躍されますように心からお祈りさせていただきます。実施にあたり、多くの皆様からの寄付やお支えを頂戴し、素晴らしいときを持つことができたことに、心より感謝申し上げます。

神戸キリスト教青年会ミッション委員会 委員長 森 愛子

2013年度YMCAセミナーのご報告

- ・日時：2013年11月9日14:00～15:30
- ・会場：日本基督教団神戸栄光教会
- ・参加者数：120名
- ・寄付金総額：311,200円(目標金額300,000円)
- ※実施経費を計上後の益金19,978円は、委員会協議の上、神戸YMCAフィリピン台風30号被災支援募金に捧げさせていただきました。
- ・席上募金額：82,431円(42,431円を東日本大震災復興支援募金へ、40,000円をとえ基金として捧げさせていただきました。)

「自然」と「地域」に見守られて...

神戸YMCAちとせ幼稚園のある須磨区高倉台は、今から40年程前にニュータウンとして開発された地域で、この高倉山を切り開いた土砂でポートアイランドは埋め立てられたと言われています。六甲縦走路にも位置する高倉台は、自然豊かなベッドタウンとして親しまれてきた土地です。開発されて40数年経った現在は住人の高齢化も進んでいますが、町づくりはしっかりとなされ、人々が互いに声を掛け合う優しく温かな町であると共に、自然の宝庫でもあります。その地域性と豊かな自然が見直され、昨今は若い人々が戻ってきているとも言われています。実際、幼稚園にも卒園生が保護者として帰って来て、自分の幼少期を懐かしみつつ、自分と同じようにのびのびと過ごさせたいと、お子様を入園させてくださっているケースが増えています。本当に嬉しいことです。幼稚園の周りは、ぐるりと散歩するだけでも自然の恵みが盛りだくさんです。晩秋にはイチヨウ、ナンキンハゼ、トウカエデ、サクラ...と大きく成長した木々の紅葉も美しく、子どもたちは落ち葉を拾い集めては輪ゴムで留めて花束のようにしたり、落ち葉を集めた特製ベットに埋められたり、ドングリを拾い集めたり...と大喜びです。そんな子どもたちの姿を温かく見守り、「こんには」「たくさん葉っぱを集めたわねえ」「まあ、元気だわねえ」とご近所の方が声をかけてくださいます。こんなに豊かな自然と温かい人々に囲まれて過ごさせているYMCAちとせ幼稚園の子どもたちは、今日も元気いっぱい! 感謝です!



12月に入ると街中ではクリスマス音楽が流れていたり、きれいなイルミネーションが飾ってあったりとクリスマスの時期がやってきたと感じられます。子どもたちも「今年もサンタさん来てくれるかな」と楽しみにしています。太山寺児童館は、「地域との協働」をテーマに今年度は学園都市地域に属する子育て団体とともにクリスマス会を開きました。神戸市看護大学、西区社会福祉協議会、大学生・地域ボランティア、西神戸YMCA、児童館など多くの方が集い、12月14日(土)神戸市看護大学のホールで「学園キッズクリスマス〜光の“わ”をともそう〜」を実施しました。学園キッズクリスマスの出演者として学園都市に住む子どもたちによるダンスや演奏発表、中学校の吹奏楽部によるクリスマスソングなど子どもたちが活躍できる場が盛りだくさんです。学童保育クラブの子ども達は銭太鼓を演奏するので10月から日々練習に励みました。

児童館から

児童館はこれからも学園都市において地域の様々な団体や人のネットワークづくり、子ども・母親の居場所づくりを目指してまいります。(太山寺児童館)



第21期ステップⅡ研修

9月17日から11月30日まで、全国10のYMCAから14名の研修生が雄大な富士山の下に集められ、第21期ステップⅡ研修が行われました。神戸YMCAからは、岩井(三宮ブランチ)、坂本(西神戸ブランチ)が参加しました。

人間関係トレーニングから始まり、キリスト教理解、YMCA理解、マネジメント領域と、幅広い学びが続きました。いずれの地域にあってもYMCAミッションを遂行していくために必要な学びの連続で、自分の中に大事なものをひとつずつ貯めていく学びの時だと感じる日々でした。



研修生同士も講義の中で、また毎朝の祈りと礼拝の中で、自分を見つめつつ、さらけ出して、かけがいのない仲間とのつながりを深めました。特に男性ばかり14名、個性派集団の「長期おっさんキャンプ」と呼ばれていました。休みの日にはおっさんのおっさんによるおっさんのための料理タイムもあり、文字通り寝食を共にし、絆を深めました。

数々の講義において、講師の方々から熱い思いとYMCA愛を感じることができました。特に神戸YMCAに連なる方の講義が多いことは、神戸YMCAから参加している私たちにとって、身が引き締まる思いと、普段のYMCA運動において、非常に恵まれた素晴らしい環境に置かれていることに感謝をする時間でした。

今後のYMCA運動を実践するための考察として、坂本は『神戸YMCA西神戸ブランチの再考～ファミリー・地域・ソーシャルイノベーションに注目して～』、岩井は『ウエルネスからファミリーウエルネスへのチャレンジ～高齢者支援を中心に～』、以上を修了論文として仕上げました。



このような豊かな時間を与えてくださったこと、また長期にわたり、各現場を守り、祈りつつ支えてくださっている仲間の存在があり、毎日があることを心から感謝し、神戸に戻りました。

岩井義矢・坂本孝司

第2回KOBEM中高生Sweetsコンテスト

11月10日(日)に第2回KOBEM中高生SweetsコンテストをユースプラザKOBEM・EASTにて開催しました。このコンテストは、中高生にオリジナルスイーツ作りを通して自己表現をしたり、参加者同士の交流を深めたりする機会を提供しようとするもので、昨年度より開催しています。今年は35組の応募があり、書類選考を通過した10組がユースプラザに集い、自分たちの作品に込めた思いを発表してくれました。



作品はどれも素晴らしく、プロのパティシエも驚くほどでした。ケーキ作りの技術はもちろんですが、そこに込められた純粋な思いに審査委員の方々も心動かされたのではないかと思います。参加した中高生たちは、自分たちで試行錯誤をしながらケーキを作るという作業を通して、「もの作り」に込められた思いに触れることができたのではないのでしょうか。私たちが普段何気なく口にしているものや、身に付けているものにも、色々な人の思いが詰まっています。「もの作り」を通して「もの」に込められた思いに気づき、その思いを大切に感謝して受け容れる心を育てて欲しいと願っています。来年も多くの中高生が、思いがたくさん詰まったケーキを作ってコンテストに応募してくれることを楽しみにしています。

神戸YMCAカレッジ「日本語・日本語教育セミナー」



11月16日(土)、三宮会館にて日本語・日本語教育セミナーを行いました。日本語教育や多文化共生に興味のある方を対象に行っているこのセミナーですが、今回は留学生の就職をサポートしている(株)オリジネーターより工藤尚美氏をお迎えし、外国人の就職状況や動向、求められる人材像、能力などについて、具体的な事例を交えてお話いただきました。

社内のグローバル化・多様化の推進のため、また国籍を問わず優秀な人材を確保するため、最近外国人社員を雇用する企業が増えています。新卒採用の2、3割を外国人にしたという企業や、ビザ緩和で急増している東南アジアからの観光客に対応するために人材確保が急務になっているという企業の話題もニュースで見かけます。今、必要とされている「グローバル人材」。しかし、一口にそういっても、「日本語能力は低くても専門性があれば」という会社から、「日本の文化、考え方を良く知っている日本人のような外国人人材が欲しい」という会社まで、企業によって考え方は様々とのことです。仕事を探す側の外国人にとっては、まったく未知の「日本型就職活動」に翻弄されながら、手探りで就職活動を進めなければならない状況。そして、人材を求める日本企業の側も、どうやったら真に優秀な人材が見極められるのか、どうやってその貴重な人材をうまく生かせるのか、不慣れな「グローバル人材」の受け入れに戸惑っているのが現状のようです。

神戸YMCAカレッジには、全日制的神戸YMCA学院専門学校日本語学科、ランゲージセンター日本語学習プログラムにたくさんの外国人の方が来てくださっています。そんな方々のサポート、まだまだ課題山積ですが、努力を重ねていきたいと思っています。

【次回セミナー】 2014年2月8日(土) 午後1時30分～3時
「外国にルーツを持つ子どもたちの現状と課題」
問合・申込先 TEL 078-241-7204

31年目を迎えるタイ・ワークキャンプ
神戸YMCAとチェンマイYMCAが1984年から毎年行っているワークキャンプ。2013年は30周年という節目の年となり、過去の参加者の方にも加わっていただき国際委員会でもキャンパの評価を行い、また9月には現地を訪問する交流プログラムも実施されました。



第27回メーサリエン郡トンプラウ村



第30回メーサリエン郡ファイサイ村

と云われており、校長先生からも地域の子どもたち全員が就学していると聞きました。これからは障がいのある子どもたちも学習機会が増えていくことになるでしょう。第15回のワークで建設した保育園も訪問しました。15年前の建物ですが、大切に使用していただいていることが一目でわかりました。地でも産業構造が変わりつつあるタイではこれから就学前教育の必要性が増すことが予想されます。

神戸YMCAとチェンマイYMCAは9月の協議でワークキャンプを継続していくことを確認し、2014年3月の第31回キャンプは参加者募集が始まっています。「国際協力」と「学び」のワークキャンプには是非ご参加ください。(中尾 秀一/神戸YMCA国際委員長)

【第31回タイ・ワークキャンプ】
日程…2014年3月14日(金)～26日(水)
対象…17歳以上18歳以上の方
問合先…神戸YMCA国際・奉仕センター
TEL 078-241-7204

- ウエルネスセンター三宮 ☎078 (241) 7202
- YMCAホームヘルパーの事務所 ☎078 (241) 7237
- ランゲージセンター ☎078 (241) 7204
- 専門学校 ☎078 (241) 7203
- 西宮YMCA ☎0798 (35) 5987
- 三田YMCA ☎079 (559) 0075
- 余島野外活動センター ☎0879 (62) 2241
- 国際・奉仕センター ☎078 (241) 7204
- ウエルネスセンター学園都市 ☎078 (793) 7401



Information

- 西神戸YMCA ☎078 (793) 7402
- 西神南YMCA ☎078 (993) 1560
- 須磨YMCA ☎078 (734) 0183
- YMCA保育園 ☎078 (794) 3901
- 西宮YMCA保育園 ☎0798 (35) 5992
- 西神戸YMCA保育園 ☎078 (792) 1011
- YMCAちとせ幼稚園 ☎078 (732) 3542
- 西神戸YMCA幼稚園 ☎078 (997) 7705
- 西宮つとがわYMCA保育園 ☎0798 (26) 1016

YMCAグリーン・チャレンジ2013開催!

2013年10月18日から10月31日の間、神戸YMCAではグリーンチャレンジに取り組みました。グリーンチャレンジとは、アジア・太平洋YMCA同盟(APAY)の呼びかけで、『Green to the Core (環境への意識が個人そしてYMCA・ワイズの核心になるように)』をテーマに環境に関する取り組みを行うことです。参加者が環境について取り組むことが、地球市民として環境について考えるきっかけになるようお願い、全国のYMCAでチャレンジを行いました。日本全国だけでなく、アジア・太平洋地域のYMCAでも同じ時期に様々なチャレンジが行われました。



神戸YMCAとしては、期間中に開催された10月20日の神戸YMCA国際協力バザー、10月27日の西神戸YMCAワイワイ祭り・西宮YMCAカーニバルの3つのバザーにてグリーンチャレンジへの取り組みを行いました。それぞれのバザーでエコバッグやマイ箸持参の呼びかけを行い、会場ではゴミの分別回収、ペットボトルキャップやアルミ缶プルトップの回収を行いました。特別な取り組みではなく、普段していることや簡単にできることを通して、環境への意識を高めました。また、このグリーンチャレンジはYMCAのユース(18歳から35歳)が主体となって、神戸YMCAだけでなく、各地で取り組みが実施されました。facebookで取り組みの内容や写真をアップして、アジア・太平洋地域のYMCAと共有することでYMCA同士のつながりを持つこともできました。グリーンチャレンジに取り組むことで、一人ひとりが地球市民として環境について考えるきっかけになる事を願っています。チャレンジにご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

YMCAワールド・チャレンジ/グリーン・チャレンジ日本版facebook
<http://www.facebook.com/JapanYMCAWorldChallenge>

山口 徹さん(神戸YMCA前総主事)が兵庫県教育委員長に選出されました。
 任期は10月18日より1年。

★★ 個人消息 ★★

(お誕生)おめでとうございます。
 10月21日
 島谷保奈美さん
 (西宮YMCA保育園旧職員)
 颯汰(そなた)くん

12月12日
 掛布友子さん
 (西宮YMCA保育園職員)
 琥太郎(こたろう)くん

DingDong Ringers コンサート

11月30日、神戸芸術センターのショパンホールで、DingDong Ringersのコンサートが行われました。2013年8月の台湾演奏旅行のためにアレンジされた本邦初演奏の1曲を含め14曲、加えてアンコールで1曲が奏でられ、大きな感動を与えました。1曲ごとに解説が入るので、初めて聴く人にもわかりやすい構成でした。繊細な音色を引き出すため、やさしく、時には力強い阿部望先生の指揮が印象的でした。



収益は、青少年育成に尽くしている神戸YMCA支援として使用されます。

第3回関西YMCA交流会

第3回 関西YMCA交流会が11月6日、ホテルグランヴィア大阪にて開催され、YMCAホテル学科卒業生、現役学生あわせて約80人が出席しました。これは2009年、関西ワイエム会(東京YMCA国際ホテル専門学校関西OB会)の呼びかけで、東京・大阪・神戸・京都のYMCAホテル学校のOBの相互交流、各校OBと現役学生との交流の会として、2年に1回開催されております。在校生は緊張しながらも、熱心に各席をまわり、会のために準備をした名刺を交換しながら、業界の現状について話を聞いていました。2014年神戸YMCA学院専門学校ホテル学科は50周年をむかえます。さらにネットワークを強めていきたいと思っております。



神戸YMCA幼稚園保育園職員同窓会

神戸YMCAの幼稚園、保育園の職員同窓会が、11月23日(祝)にホテルクラウンパレス神戸にて行われました。財団法人西神戸YMCA保育園(神戸市長田区)に勤務していた先生から、YMCA保育園(神戸市西区)、神戸YMCAちとせ幼稚園(神戸市須磨区)、西神戸YMCA幼稚園(神戸市西区)まで総勢80名の先生方が、一同に集まり、旧交の時を深めました。阪神淡路大震災で廃園になった西神戸YMCA保育園の先生方は、スライドに涙し、10年、20年ぶりに会う先生方は遠くは、神奈川、三重から駆けつけてくれました。元YMCA保育園長の星野昌枝先生や元西神戸YMCA保育園長の大林富雄園長先生達も駆けつけてくださり、「つながりの中で生きる私達」の話をいただきました。これで、正式に「神戸YMCA幼稚園 保育園職員同窓会」を組織することが決議され、事務局をYMCA保育園、神戸YMCAちとせ幼稚園におき、今後は、たくさんの先生方や、卒園児、卒園児の保護者の方のご意見もおききしつつ、「つながりを大切に歩む」計画をしていきたいと思っております。

- 【第29回神戸YMCAチャリティゴルフ大会】
 日時…2013年10月23日
 場所…芦屋カンツリー倶楽部
 参加者数…56名
 収益金額…約280,000円
 こども奨学金として…23,384円
 協力者氏名…
- 五十嵐かほる、井上良一、岩谷良男、上田陽子、上野恭男、大崎正博、大田靖之、小笠原美根、岡野泰和、長内建佑、尾上尚司、柏原佳子、嘉納洋、嘉納忠夫、国本正男、熊谷親啓、河野彰、志賀正武、清水泰人、杉田由嗣、高井和代、武田寿子、武田建、武本雅行、多胡葉子、鄭美恵、堂本将司、中尾英輔、西澤みどり、朴正浩、橋爪宏之、橋本正晴、波太英樹、濱浩一、濱美智子、東谷敏雄、平塚慶江、広瀬一雄、福原吉孝、藤井栄治、藤田良祐、藤平和美、堀岩夫、松井隆介、万本敬一、水野雄二、光岡和美、宮昭久、三宅敬、山口政紀、山口洋子、山本克己、山本常雄、横山瞭一、吉田透、吉野泰史、阪根新、尾崎伸西省三、安行英文
- 【西宮ファミリールプログラムへの支援金】
 西宮ワイズメンズクラブ
- 【子ども奨学金】
 宝塚ワイズメンズクラブ、島田恒小田浩、島田恒、清水泰人
- 【神戸YMCA建築募金】
 小田浩、島田恒、清水泰人
- 【YMCAセミナー2013】
 武田寿子、向井元、中山豊美、水野雄二、鈴木肇、和田雪、齊藤靖有友裕美子、佐々木咲野加、達直樹、有限会社ピアノ技研
- 【チャレンジファンด์】
 島田恒

感謝・寄付
 (順不同・敬称略)